

山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道



平成20年戊子 住職年頭挨拶

「耐雪梅花麗」西郷隆盛



↑ 龍源寺梅林

雪に耐へて梅花麗し、と読みます。明治維新の立役者である西郷隆盛の漢詩の一節です。

寒さが厳しければ厳しい程、美しい花を咲かせるという梅。艱難辛苦、苦勞や困難に立ち向かうことにより、人も成長し、人生の花が咲き開くといった意味です。

折りしも、不肖ながら曹洞宗群馬県宗務所の梅花主事というお役目を拝命し、先月で一年が経過いたしました。昨年は55周年記念の全国大会、50周年記念の県大会もありましたが、恙無く圓成することができました。また昨年は、七年間という星霜を経て編纂作業を行いました『仁叟寺誌』が刊行を見ました。一時は発行することは不可能ではないのかと考えた時期もありましたが、全てご縁に繋がる方々のご協力ご尽力の賜物であると考えております。文化財指定の変更や仏像修復、文化財展など更に拡がっていくご縁も、ありがたい限りでございます。

風雪に耐え秀麗な花を咲かせる龍源寺梅林の梅花のように、本年も精進をさせていただき所存であります。何卒、宜しくお願い申し上げます。 合掌

→ 『仁叟寺誌』



平成20年

龍源寺年間行事予定

- 1/1~1/3 年頭祈禱・年賀受
- 1/4~1/7 年始挨拶
- ※1/10 年賀寺例
- ※2/3 大節分会
- ※2/15 釈尊涅槃会
- ※3/9 大般若・大施食会法要
- ※3月中旬 筆供養法要
- 3/18~3/24 春季彼岸会
- 3/23 旧蚕影山例祭日
- ※4/8 釈尊降誕会(花祭り)
- 4/29 大施食会兼蚕影山例祭法要
- ※6月中旬 第46回群馬緑蔭禪の集い
- 7/13~7/16 京浜地区檀信徒棚経
- ※7月下旬 第27回子供禪の集い
- ※8/10 中元寺例
- 8/13~8/16 盂蘭盆会
- 9/20~9/26 秋季彼岸会
- ※10/18 檀信徒参拝研修旅行
- ※12/8 釈尊成道会
- ※12/10 歳暮寺例
- ※12/31 除夜会
- ※毎週土・日曜日 書道教室
- ※毎週水曜日 定期坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講稽古・華道教室
- ※は御本寺仁叟寺にて開催

平成20年 年回表

一周忌	平成十九年	二十三回忌	昭和六十一年
三回忌	平成十八年	二十七回忌	昭和五十七年
七回忌	平成十四年	三十三回忌	昭和五十一年
十三回忌	平成八年	五十回忌	昭和三十四年
十七回忌	平成四年	百回忌	明治四十二年

※1 以上、各ご家庭に於いてご確認下さい。
 ※2 該当檀信徒各家には封書にて通知が届きます。

仁叟寺通信-22- 「仁叟寺の文化財展」

吉井町郷土資料館主催による特別企画展「仁叟寺の文化財展～仁叟寺の歴史 寺と檀徒・地域とのかかわり」が、昨年10月27日（土）～11月25日（日）に掛けての約一ヶ月に亘って開催されました。会場は資料館のほか仁叟寺を第二会場として展示。また、『仁叟寺誌』でもお世話に
ほんまとしお おかべひろし
なった本間紀男・岡部央両先生による記念講演も開催され、上毛新聞にも記事が掲載されました。

折りしも吉井町郷土資料館開館35周年という節目の年であり、延べ



↑ 企画展ポスター



↑ 本間紀男先生による記念講演
(於、仁叟寺本堂)

千名を超える方々のご来場を賜り、盛会裏に行うことができました。二会場での開催や二度に亘る高名な先生による講演会など郷土資料館企画展として、稀に見る盛大な展示会となりました。

なお、同企画展では特に吉井町郷土資料館友の会

(会長・加藤幸夫氏)を中心としたボランティアの皆様方にはお世話になりました。改めまして、厚く御礼申し上げます。



↑ 企画展風景 (資料館)

こかげさんぞう

龍源寺探索-19- 「蚕影山像」



↑ 蚕影山宮殿

今回の探索では、「龍源寺蚕影山像」を紹介いたします。

一昨年から仏教造形研究所代表、本間紀男先生が調査を行っております。本尊は女神像の造形をしており、蚕影山伝説で
こんじきひめ
有名な金色姫ではないかと思われま

→ 蚕影山本尊



れております。金色姫の木像は国内においても現存することは稀であり、非常に貴重であるとの指摘を受けました。蚕影山信仰は養蚕の盛んな地区、とりわけ関東・東海地区で多く見られました。作製時代は近世頃と思われるが、龍源寺蚕影山の記述のある仁叟寺古文書や蚕影山御姿札の木製原版が江戸期の作であるとのことですので、当寺でも古い像になります。以前は蚕影山別當であった祠が山の中腹のにありましたので、明治26年(1893)の火災にも遭うことなく、往時の姿を偲ばせております。

毎年3月23日が例祭の日でしたが、現在は4月29日の当寺大施食会に併せて蚕影山御祈祷会を

ひかり開通とFAX番号変更

新FAX番号

027-384-3092

龍源寺及び仁叟寺に、フレッツ光の回線が届くようになり、早速工事を行わせていただきました。また龍源寺では、それに伴い、FAX回線の増設を行いました。旧来は電話番号と同じFAX番号でありましたが、上記のように変更となりましたこと、ここにご報告申し上げます。宜しくお申し上げます。

文化財調査委員会来寺

吉井町教育委員会及び文化財調査委員の皆様方が昨年9月27日（木）午後に龍源寺に来山いたしました。森賢六教育長さんも、ご多忙中に関わらず来寺されました。

現在、文化財申請を行っている蚕影山についての調査で、当寺からは住職のほか、小林茂総代長はじめ田中忠男・出牛裕一両総代人、地区の長老である白田實氏が参加。蚕影山の由来や現在も行われている例祭についての調査を行いました。後日、聞き取り調査を住職が白田實氏に行い、報告書を教育委員会宛に提出させていただきました。

世界遺産暫定リストに入っている富岡製糸場や桑の全国的品種である多胡早生、根岸線の由来にもなった生糸貿易商根岸商店などは当地と深い関わりを持っております。現在も4月29日に大施食会とともに行われている、お蚕様の例祭である蚕影山御祈祷会など地区の尊崇を集めております。寺院だけでなく地域の文化財として護っていききたいものです。



↑ 町教委及び調査委員各氏による調査

吉井町仏教会50周年式典開催



↑ 三遊亭好楽師匠

きました。当式典では、会場が満席になるほどの参加者が見えられ、盛会裏に無事圓成する事が出来ました。

吉井町仏教会は、弘福寺住職高橋隆光会長のもと現在所属寺院22ヶ寺によって運営されております。龍源寺住職も会計役員として務めております。宗派を超えた交流があり、昭和32年（1957）に発足した当初は、初代会長を仁叟寺渡辺石橋住職（当時）が、第4代会長を仁叟寺渡辺隆司東堂が務め、戦没者供養・講演会・研修会・燈籠流しなどの諸行事を行ってまいりました。

節目となる記念式典も圓成でき、同会のこれからの活動も更に隆盛になるものと思っております。



↑ 記念式典風景

昨年11月18日（日）に、吉井町仏教会発足50周年記念式典が吉井町産業文化会館にて開催されました。齋藤軍雄吉井町長はじめ教育長など来賓ご臨席のもと、記念式典は荘厳に修行され

ました。記念式典終了後には、講師として仁叟寺住職と旧知の友人である落語家・三遊亭好楽師匠の高座を楽しませていただ

【特別寄稿】北毛の名刹を訪ねて 田中みき江

昨日の雨が嘘のように10月20日（土）は秋晴れの清々しい朝でした。吉井インターから上信越道・関越道を通り、北に谷川連峰を見ながら大型バス1台、36名の参加でした。

かしょうざん

迦葉山さまから眺める山々の風景は素晴らしく、また天狗様の大きさにも吃驚でした。たくみの里では、仁叟寺住職奥様の提案で、体験型観光施設内の押し花の講習をしていただきました。花卉を重ねて男性の方も目を輝かせて一生懸命に作品を作成いたしました。それぞれ個性のある作品が出来上がり、感動いたしました。

たいねいじ

山里にある泰寧寺さまでは93歳になる高齢の参加者も98段ある石段を上りました。全員無事



↑ 雙林寺さまに於いての記念集合写真

しゅうみだん

に上ることができ参拝。県指定重要文化財である山門や須彌壇などを拝見。牡丹・唐獅子等の彫刻と彩色はとても素晴らしく、参拝する者として心が澄み、落ち着く気分させていただきました。

そうりんじ

最後に、仁叟寺のご本寺である雙林寺さまに参拝。広大な敷地に荘厳な伽藍。晴れ晴れとした爽快な気持ちにさせていただきました。

移動するたびに風景も変わり、爽やかな秋の風が心地よく、日頃見たり聞いたり出来ない体験をさせていただき、感動感動の一日でした。バス車中では、皆様と交流も出来、楽しい旅が出来ました事、ありがたく思っております。また、仁叟寺住職夫妻、ほか関係者の皆様方には大変お世話様になりました。ありがとうございました。

また、良い企画をしてくださるとの事です。皆様も一度、俗界からしばし離れ体験されませんか？きっと楽しい旅が待っています。



↑ 天狗様で有名な迦葉山さま

行雲流水（編集後記）

編集人 住職 渡辺龍道

明けましておめでとうございます。昨年は『仁叟寺誌』の刊行がありました。刊行までの道程は決して平坦なものではありませんでしたが、多くの方々のご尽力ご協力の元、立派な歴史書が作製出来ました。更にはそこから文化財指定変更申請、仏像修復事業、文化財展等に発展をしていくことも出来ましたこと、有難いご縁という他ありません。

また、現在お役を頂いている曹洞宗群馬県宗務所梅花主事も一年が経過いたしました。記念行事等もあり、また責任ある配役ゆえ大変ではありますが、初心を大切に、精進をさせて頂こうと思っております。

本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

